

現地研修

山コース（大台ヶ原）現地研修を終えて

— 天の川にペルセウス座流星群、こんなに晴れた大台ヶ原は見たことがない —

府立伯太高校 高嶋 浩紀 府立和泉高校 出原 茂樹 府立門真なみはや高校 宮井 一
 府立藤井寺高校 長尾 祐司 府立和泉高校 木岡 由美 私立精華高校 佐竹 双美子

吉野熊野国立公園に指定される大台ヶ原は世界有数の多雨地帯であり、年間降水量は 3,500mm にも及ぶ。本現地研修の下見でも滞在期間の半分以上は雨で、夜に星空を見られた日は1日も無かった。そして2023年8月、本番を前に東南の方から台風6号がのらりくらりとやってきて、しかも南の海上には台風7号が産声を上げた。スタッフの中には嵐を呼ぶ女性が2名いた。絶望的であった。

<1日目>このような状況の中で向かえた8月11日、驚くほど晴れ渡った大台ヶ原での研修が始まった。大台ヶ原は前日までの5日間で降水量が1000mmを超え、道路も通行止めになっていたとのこと。まさに間一髪であった。西大台へ入山するためのレクチャーを受けた後、日が落ちるまでの時間を活用して、大台ヶ原で最も短いコースである苔探勝路を歩いた。ウラジロモミの特徴、トウヒの球果、葉が小ぶりのブナ、オオイタヤメイゲツとコハウチワカエデの見分け方、触ってはいけないツタウルシ、アオダモ、オオカメノキ、ツルアジサイ、ツルリンドウ、ハスノハイチゴ、セイタカスギゴケ、ホソバトウゲシバなど、次の日の西大台に向けて、大台ヶ原で見られる植物を観察した。生物好きが20名集まれば、その熱心さでどうしても歩みは遅くなる。コースタイム15分程度の道を1時間30分かけて歩いたがゴールに辿りつかず、観察を打ち切って宿へと戻った。西大台のコースタイムは約4時間。はたして帰って来られるのだろうか。

夕食を食べた後、食堂の一部をお借りして奈良教育大学特任教授の松井淳先生に大台ヶ原についての講演を行なっていただき、シカによる植生への影響を学んだ。今回は話の途中で質問してもよいという特別ルールで、参加者からは質問が次々と飛び交い、松井先生にはそれらに丁寧に答えていただいた。講演後、星空観察。満点の星空が山の稜線まで広がり、天の河がくっきりと見えた。ペルセウス座流星群の時期で、流れ星もいくつも見られた。幻想的な風景に、嬉しさが込み上げた。

<2日目> 8月12日、快晴。この日は入山するのに事前申請が必要な西大台の散策を行なった。1グループ10名までという規則があるため、時計回りと反時計回りの2グループに分かれて植物観察を行なった。ブナ、ミズナラ、オオミヤマガマズ

ミ、フウリンウメモドキ、イタヤカエデ、サワグルミ、アサノハカエデ、コハクウンボク、ミズメ、ヒメシャラ、テンニンソウ、バイケイソウ、ツクバネソウ、モミジガサ、カワチブシ、マンネンスギ、エゾヒカゲノカズラなど、ブナの原生林に生える多くの植物を観察した。植物以外にも、山間の溪流周辺を中心に生活しているナガレヒキガエルや、タマゴテングタケモドキなどの多くのキノコも見られた。松井先生の解説のもと、防鹿柵の内側と外側の植生の違いも観察し、柵の内側では幼樹や若樹、スズタケなどが多いのに対して、外側では林床が剥き出しの状態になっていたり、シカが嫌うミヤマシキミや食害に比較的強いミヤコザサなどが多いことも確認した。約9時間、西大台を満喫して宿に帰り、夕食後はマルバアオダモ（持参したもの）の蛍光実験と懇親会、植物よろず相談コーナー、そして星空観察会を行なった。

<3日目>8月13日、最終日は環境省の鶴飼匠太氏に協力していただき、東大台で樹木への防鹿ネットまき、防鹿柵の中の見学、防鹿柵内の笹刈りなどの実習を行なった。シカの食害によるトウヒの立ち枯れが顕著な正木峠では10頭ほどの鹿の群れを観察しながら昼食をとり、その後は植物観察班と大蛇岨班の2班に分かれた。この日は曇りで霧が出ていたが、大蛇岨へ到着したタイミングで霧が晴れ、絶景を堪能することができた。

次の日から大台ヶ原は再び大雨に見舞われ、落石により道路は通行止めになったらしい。冷や冷やの連続であったが、ここまで天気にも恵まれた大台ヶ原に出会えたのは、参加者の先生方の日頃の努力に対するご褒美のように感じられた。学びの多い研修であった。（文責 高嶋）



大台ヶ原 心・湯治館前にて